

## 知的障害者(児)への「まごころふれあい広場」便り



《子供達がクッキング》  
夏休みふれあい広場で集いました。  
障害があっても、なくとも、みんな友達。二十六名の親子さんピザとクッキー作りに大奮闘。楽しかった!

「まごころ」では、地域の中で様々な方々が、ふれあい行き交う場所が必要だと思ってきました。今回のような集いで、自然な交流が出来るだけ何よりだと思っております。お母さん方からも好評でした。これからも機会を作っていきたいと考えています。

### ◇地域の中でふれあえる場所

「まごころふれあい広場」で地域の子供達も交じえて、障害を持つお子さんとお母さんが一緒にピザとクッキー作りを行いました。二十六名の親子さんが広場いっぱい集い、賑やかで、和やかな楽しい時間を過ごしました。講師の濱田先生は、この会の趣旨にご賛同下さって、桑名からお出でいただき、子供達が出来る作り方を指導いただきました。発酵する様子やピザが焼き上がるさまを、オーブンの前で真剣にじっと見入っている子供達。そして、自分で作ったピザを食べている顔は、勿論、みんな満足な笑顔で「美味しい!」。

◇賑やかで和やかな集い  
みんな仲間/真剣な眼差し



地域での大切な活動  
これまで上映し、反響の大きかった映画を、地域の中で鑑賞していただくこと、八月二十四日(日)、夏の映画会を当会「ふれあい広場」で開催。

上映した2本の作品は、介護者自身の価値観が、病む人の人格を勝手に決めない、という大切な問題を問うものでした。

私達は、痴呆症やアルツハイマー症を患う人々を認めます。しかし、介護する側にも人としての格があることを忘れず、日頃からの是非、忘れないようにしたい。そういう意味で、上映会は当会の大切な活動です。

《高齢者課題の痴呆症とアルツハイマー症を考える映画に再び深い感動!》

## 「ホーム・スイートホーム」 「風流れるままに」を上映

《夏ふれあい映画会 古いと家族をテーマに》

## 《報告》一宮市委託・家族介護講座が閉講 ◆寝たきり体験と介護技術◆

病む人に近づく努力をし、いい介護につなげるための寝たきり体験  
濡れたおむつ/動けない/寝かされる/食べさせてもらう/リフトで入浴等体験。さて、受講生はどう感ずることが出来たのでしょうか。

体験して・介護を受けている父の気持ちが少しだけ分かった気がする/やさしい言葉がけの必要を理解出来た/寝かされて不安/一人では生きていけないと感じた。  
濡れたおむつ・体験出来てよかった。排泄がどんなに大事なことなのか勉強出来た/イヤでした/外した時の爽快感は格別だった。  
縛り・母を縛っていたことがあった。初めてその苦痛がわかった/「まごころ」まで縛られる/人権無視/現実の介護で縛ることに直面するかもわかりません。その時どうするかかわらない。でも、自分が縛られることになったら抵抗すると思う。

受講生の感想から一言

体験出来てよかった/体験し、思いやりのある介護をしていきたいと思った

◆食べさせてもらう食事・嫌でした/食事ではない。自分で食べたい。  
◆リフトの入浴・不安/恥ずかしい/寝たきりの方にも介護者にとって大事な選択のひとつだと理解できた。

### ◇六回目の寝たきり講座 介護する視点を学ぶ

去る八月十九日と二十日の両日、一宮市中央看護専門学校にて一宮市委託を受け当会が実施する家族介護講座「寝たきり体験と介護技術」を開催、二十名の熱心な受講生を迎え、この程修了しました。当会が、平成十年から毎年行っている寝たきり体験ですが、今年も六回目になりました。毎回、様々な反応をいただいてきましたが、今回も「どう介護したらいいのか」体験を通して、理解を深めてい

ただけたようでした。両日共、午後からの介護技術には、日本赤十字社愛知県支部から横井、近藤両先生に指導をいただきました。移動、起し、寝間着・シート・おむつ交換、寝たきりの方にベッド上での洗髪、清拭、足浴など全員が実施、寝たきりとあわせて盛りだくさんな講座となりました。

### 《拘束について》

☆今、介護保険制度では縛りを禁止しています。しかし、現実には定かではないようです。平成13年2月21日、全国老人福祉施設協議会は「拘束ゼロへの誓い」を宣言しています。

- 1. 拘束は人権侵害であり、ゼロにする必要があることを訴えます。
  - 2. 拘束ゼロをめざし、全国的な意思統一と実践研究を推進します。
  - 3. 拘束ゼロを実現するため、介護技術の研究と、必要環境改善を推進します。
- 平成十三年二月二十一日  
全国老人福祉施設協議会

## 市内に知的障害児の デイサービスを 急がれる支援費 制度の基盤整備

障害児の働くお母さんは、学校から帰ってくるお子さんへの対応が頼みです。しかし、祖父母の方々が高齢になられるにつれて、いつ頼れなくなるかと不安になっておられます。緊急に必要な場合には是非利用したいと、当会有償活動の「ふれあいひろば」に訪問されました。現在、一宮市内には知的障害児のデイサービスはありません。せめて、市内に支援費の基盤整備が整うまで、緊急時だけでも一宮市独自のサービスが受けられれば安心なのですがお母さんの声。

